

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の発生状況

岡山県病害虫防除所の調査によると、赤磐市の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数が6月3半旬以降多く推移しており、これにより6月1～5半旬の総誘殺数が239頭と平年（80.7頭）より多くなっています（図1）。前年のスギ・ヒノキ花粉飛散数を利用した予測式では、赤磐市における本年のチャバネアオカメムシの4～7月の予察灯への飛来数は495.1頭で、平年（486.4頭）並と予測されていますが、広島地方气象台が6月22日に発表した季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高いと予想されており、本虫の飛来に好適な条件が続く見込みです。ほ場を観察して今後の発生動向に注意し、成虫の発生が確認された場合は速やかに防除を実施してください。

<防除対策および防除上の参考事項>

- (1) 袋掛けを行う。ただし、果実が肥大して果実と袋が接触するようになると袋の上からでも加害されるため、発生が見られたらすみやかに防除を行う。
- (2) 樹や園全体を目合い4mm以下の防虫ネットで覆う。ただし、すでにカメムシが発生している樹には、ネットで覆う前に必ず薬剤による防除を行う。
- (3) モモ及びナシで使用する主な防除薬剤は下表による（表1、表2）。
- (4) 黄色灯を設置し、成虫飛来時期に日没から夜明けまで点灯する^注。
- (5) 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ農薬が飛散しないよう十分注意する。
- (6) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/>）で確認できる。

注 黄色灯は、チャバネアオカメムシに対して忌避効果があるが、クサギカメムシに対しては逆に誘引する。

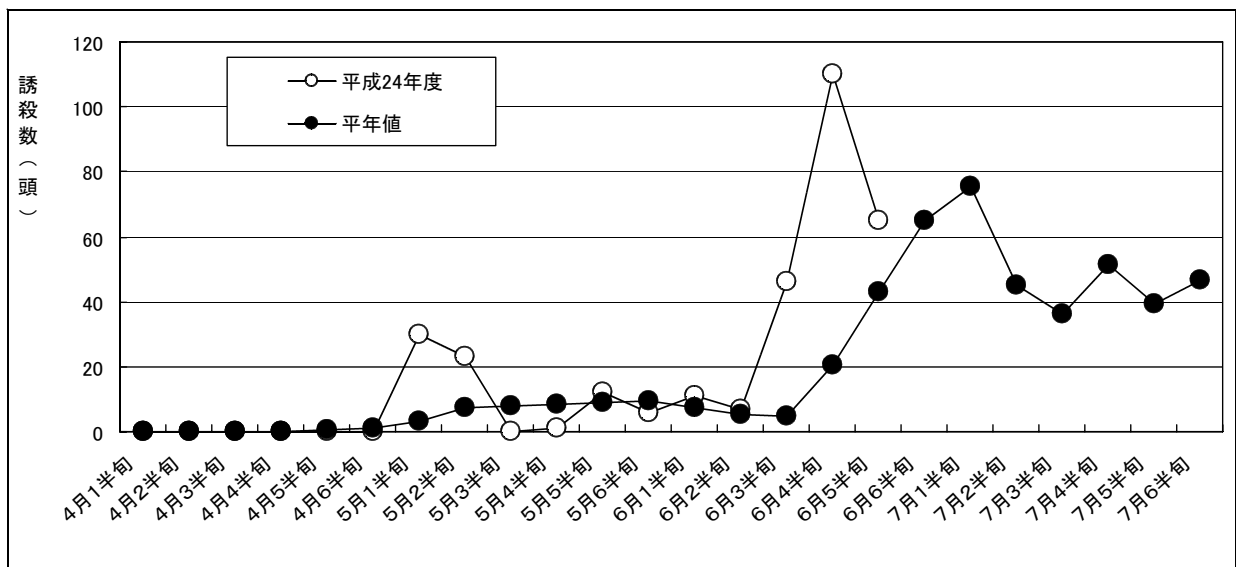


図1 平成24年度赤磐市におけるチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺状況

表1 モモのカメムシ類の主な防除薬剤（平成24年6月27日現在）

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
アーデント水和剤*	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
テルスターフロアブル*	3,000倍	収穫前日まで	2回以内
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
アグロスリン水和剤*	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
アディオン乳剤*	2,000倍	収穫7日前まで	6回以内
モスピラン水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	収穫3日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	3回以内
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

*水産動植物に対して毒性があるので養魚場周辺等で使用しない。

表2 ナシのカメムシ類の主な防除薬剤（平成24年6月27日現在）

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
アディオン乳剤*	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
スカウトフロアブル*	1,500倍	収穫前日まで	5回以内
テルスターフロアブル*	3,000倍	収穫前日まで	2回以内
ロディー水和剤*	1,000倍	収穫前日まで	2回以内
アーデント水和剤*	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
マブリック水和剤20*	2,000倍	収穫30日前まで	2回以内
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
モスピラン水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内
ベストガード水溶剤	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000～10,000倍	収穫3日前まで	2回以内

*水産動植物に対して毒性があるので養魚場周辺等で使用しない。